

やまなし女性の知恵委員会

観光の振興班



みんな、やまなし観光大使

はじめに

山梨は豊かな自然に囲まれ、21世紀型の観光資源は豊富であります。魅力ある「観光立県」としてそれらの資源を生かし守りながら全国からの観光客を誘致することは、県の繁栄にもつながります。私たちは会議を重ねてゆくうちに山梨県の観光行政や観光産業の実態は決して他に引けをとるものではなく、一定の水準にあると考えるようになりました。しかしながら、官民の連携に必要な情報の共有や受発信のあり方などは、まだまだ有機的につながっていないと感じました。また21世紀の観光産業に必須であるバリアフリーやユニバーサルデザインなどは、すべての人が質の高い観光の恩恵を得るためにも不可欠です。

このような視点から、私たちは、県がイニシアチブをとるべき観光基盤整備の課題と新しい旅の提案を、委員の知恵と思いを結集し、以下にまとめました。

提案の狙い

1. ニーズ(needs)とウォンツ(wants)の両面からの基盤整備

観光にかかわる民間やNPOでは、21世紀の環境変化を反映し、競争原理の中でさまざまな工夫を凝らしながら自助努力をしています。それらを支援するために県に手がけてほしい「ニーズ」ベースの基盤整備と、その旅をさらに魅力あるものにするための「ウォンツ」を提案します。

2. 21世紀の新しい旅の提案

自然豊かな山梨県ですが、それを売る手だてとして、女性や熟年・高齢者層をターゲットにした宿泊を伴う旅としての「旅してやせるフィットネス・ウォーキング」を提案します。

観光基盤整備の提案

1. 人材育成

育成する人材

やまなしコンシェルジュ

- ・ 「コンシェルジュ」とは、案内人、管理人、門番の意味のフランス語(concierge)であり、「やまなしコンシェルジュ」(仮称)は、観光客(個人、家族、グループ)のリクエストに的確に対応できる山梨の観光案内人で、「おもてなしの心」で観光客に接し、専門知識、接客マナーを兼ね備える観光サービススタッフのことで、
- ・ 「やまなしコンシェルジュ」の資格要件、募集・採用等の処遇については別途取り決める必要があります。また、勤務地は山梨、東京(「富士の国やまなし館」)の主要な観光案内所などが考えられます。

観光ボランティア

ボランティアを以下のとおり層別し、質・量の向上とネットワーク化を図り、必要な時に必要な人材を配置できるような「仕組み」を作る必要があります。また、今後の観光振興のためには、従来から一歩進んだ「トラベルボランティア」(道案内&有償旅先介助者)についても検討を進めることが求められます。

- ・ 観光ガイド通訳(特に中国語、韓国語)
- ・ ガイド(史跡・歴史)
- ・ 高齢者や・身体に障害のある旅人等への有償旅先介助者「トラベルボランティア」については、(特記1 観光基盤整備「日本最後に残った最大マーケット誘致の秘策」で詳しく述べます。)
- ・ 一般ボランティア
- ・ その他・・・実際に現場には出ないがガイドブック、マニュアルなど活動に必要なツールなどの作成、イベントの企画を行うサポーター的存在。やまなしコンシェルジュ同様、要件等は別途定める。

育成手段

山梨県立大学、山梨県立産業技術短期大学校において学習機会の充実を図り、県の観光発展に寄与できる人材を育成します。

既存のカリキュラムの活用、あるいはエクステンションコース(公開講座、夜間学級や通信講座等)などの設置により、専門家からボランティアまで育成目標に合わせてレベルアップを図り、講座の内容、受講時間数等は別途定め、年間カリキュラムに基づき運用していきます。また、旅の地域現場を重視し、地域ごとに観光協会、連盟を軸とした地域の特性にあった人材を育成していきます。

2. 広報・宣伝 ～やまなしブランドの確立～

「やまなし大使」の活用

山梨の魅力为全国に発信し、イメージアップを図るために、「やまなし大使」を観光振興に活用していく必要があります。

- ・ 「やまなし大使」の県内への紹介などを通し、県民の認知度を向上させることをはじめ、「やまなし大使」の方々に山梨のPRをしていただくとともに観光振興に有効なアドバイスを引き出すことの検討
- ・ 県外、特に首都圏に向けて具体的な情報発信ができるよう、県内の方々を交えた交流会の実施

知事トップセールスの今後の方向性について

知事のトップセールスの活動範囲を海外(特に姉妹都市を中心に)と国内全域とし、山梨の特色や特産品を盛り込んだ演出をするとともに、徹底的にやまなしブランドを売る姿勢が重要です。

例として以下のようなことが考えられます。

- ・ 甲斐絹を使った武田菱のネクタイ着用
- ・ 印伝製品の常時携帯
- ・ ヴァンフォーレ甲府のユニフォームの着用
- ・ 各市町村長とのコンビネーションによるメディアへの登場
- ・ 県内へのMICE(企業等のミーティング、研修旅行、国際会議等)誘致に一役を担う活動
- ・ 特定の観光客(長期滞在者、リピーター等)には、知事名でインセンティブを与える。(知事名で山梨の特産品などをプレゼントする、常連観光客への感謝状と記念品の贈呈など)

県外のメディアへの露出度を高めるなど効果的なメディア戦略の実施

- ・ 全国紙掲載に値する話題の提供
- ・ 県外の新聞社、放送局への取材依頼

情報の受発信の改善・充実

- ・ ホームページへの検索方法の改善、使い勝手の良い設計
- <例> 観光モデルコース・ルートなどの掲載
観光客の感想や意見を反映できるページの導入

3. 旅の環境整備

～やまなしへお客様を迎える気持ちの表現、「おもてなし」としての整備～

バリアフリー、ユニバーサルデザインのための、ソフト面を生かした充実

県下観光案内標識の統一(ロゴ、カラー)と英語・中国語・韓国語での表示、

施設案内、地図等の点字表示

甲府駅には北口・南口にある施設の案内板がなく、また、観光案内所も目立たないところにあることから、改善が必要。名所史跡案内も観光客がまず到着する場にこそあるべきです。

観光名所へのバスルート毎に、料金、所要時間など記入したモデルコースの案内になるような看板を設置します。「風林火山号」のような循環バスのPRと同様な他のコースを開発します。

既存の資源活用と改善

「かいてらす」とともに県の顔としての甲府駅南口の充実

観光客の誘導を主目的に、JR 甲府駅から山梨県庁、情報プラザ、甲府城までのエリアを、県の観光の顔として一大「緑陰地帯」にし自然環境整備と美化を図ります。このエリアの中に「総合観光

案内所」を設置、県庁内部も一案です。前述のコンシェルジュを常駐させ、観光客のニーズとウォンツに対応できるようにします。さらに、県内の土産品・物産品の購入場所になるようにもします。

道の駅の活用

観光資源として、地域の特産品、食材を生かした食事の提供などを行います。また、サービスの内容を、ホームページやパンフレットなどで紹介します。

新しい旅の提案

楽しく歩き、足腰鍛え、体重を落とす

旅してやせるフィットネス・ウォーキング 12 コース構築

1. フィットネス・ウォーキングの主ターゲットは健康志向の熟年層

自然豊かな山梨県ですが、自然を積極的に売っていないというのが、現状ではないでしょうか。自然が観光資源である、それを売る手だてとしてウォーキングがあり、誰に旅してほしいのか、ターゲットを想定する必要があると思われます。

女性旅行者に旅してほしいとは言うまでもありません。が、新たに旅してほしいのは熟年・高齢者層だと思います。山梨県の65歳以上の高齢者の数は全県人口の23%を占めます。全国平均のそれよりも2%程度高く、他県に先がけて山梨県が熟年・高齢者県であることが理解できるでしょう。言い換えると全県人口の4分の1近くが熟年・高齢者であること、そして日本の他県の現状もそれに迫っていると言えるのです。つまり日本中の4分の1近くは熟年・高齢者であるという現実をまず共有したいと思います。角度を変えますと、日本人を構成する人々は、乳児、幼児、小学生、中学生、高校生、大学生、お勤め人、主婦、リタイア後の熟年・高齢者等となるでしょう。この中でも自由時間がたっぷりあり、お金にも余裕があるのは、リタイア後の熟年・高齢者ということになると思われます。よって、これらの熟年・高齢の旅人に来て、滞在していただくことが、山梨県を落ち着いた観光地に育て上げると同時に、観光収入をもたらしてくれることが言えると思います。逆に日帰りのバスツアーを何百台呼んでも、宿泊しないし、お土産も買わない、つまり地域に観光収入を落とさないという観光面からは収支がマイナスのツアーも少なくないと思われます。

2. 熟年・高齢旅行者の心配事・関心事

資金力のあるリタイア後の熟年・高齢者の共通しての関心事、心配事は、お金があるなしに関係なく、自分の健康状態をいつまで維持できるかということです。そして、いつまでも元気に行動できる身体を保持したいということでしょう。

健康をいつまでも維持したいと願う、熟年・高齢者が旅に求める関心事をあげてみましょう。

高品質のおいしいものだけを食いたい。

温泉につかりたい。

人生経験豊かなので、偽ものはごめんだ。本ものを求めたい。

旅先の歴史について深く、正確に知りたい。

価値のあるものにはきちっとお金を払うが、価値のないものには払わない。

若い頃のように無理はきかないので、満足感をもって宿泊の伴った旅をしたい。
話の種になる旅をしたい。近隣の人や友人との話題にのせたい。
疲れるだけなので、混んだ観光地は好まない。観光地に心のゆとりを感じたい。
(住んでいる人の心のゆとり、街を飾る、ベンチを置く、お茶をふるまうなど。)
旅先の口コミ情報、自分だけの旅情報がほしい。
大自然の中や、知らない街を歩いてみたいが、一人では心細い。

つまり、以上の10項目をクリアする旅を提供すればいいのではないのでしょうか。
フィットネス・ウォーキングは、健康志向の人々に歩く必然性を提供するいい機会ではないかと考えます。さらに、健康診断や人間ドックなどと組み合わせて健康チェックができるようにし、定期的に山梨県に足を向ける必然性をつくる仕組みづくりをからめれば、さらにニーズが高まるでしょう。

3．宿泊を伴う旅人をつくる方法

さて、宿泊を伴う旅人がほしいと思っても、旅人は心地よく疲れて夕方を迎えないと、そこには泊まってはくれません。1日の旅の満足度と余力のバランスが重要です。

4つの道があります。

- (a)旅人の満足度が高く、余力が残っていない。
- (b)旅人の満足度が高いが、余力が残っている。
- (c)旅人の満足度が低く、余力が残っている。
- (d)旅人の満足度が低く、余力が残っていない。

(a)は、その土地に必ず宿泊してくれるでしょう。成功です。

(b)も滞在してくれる可能性があります。温泉とか、翌朝の行事、宿に引きがあれば。

(c)は当然、次の旅先に移動してしまうでしょう。

(d)の場合、満足度が低く、余力も残っていない場合でも、人は怒りと共に、次の観光地に移動してしまうと思います。悪い流れを変えたいと思うからです。そして、悪い評判を伝えます。

旅のプログラムを提供する場合には、いかに(a)の旅人、つまり満足度が高く、心地よく疲れて余力が残らない旅人をつくるかが鍵になってくると思います。これらの旅人を増やすことにより、宿泊客、観光収入をもたらす旅人が増えて、地域が活性化するのは言うまでもありません。

4．旅してやせるフィットネス・ウォーキング 12コース

山梨県の新しい旅の切り口として、楽しく歩き、足腰を鍛え、体重を落とす、と同時に、満足感いっぱい心地よく疲れて、余力を残さず、宿泊を伴う旅としての「旅してやせるフィットネス・ウォーキング」を12コース構築することを提案いたします。(特記「机上で見つけたモデルコース8選」も合わせてお読みください。)

年間12回、月に1回のペースで歩いた人は、知事との懇談夕食会に招待

年間を通じて12回、12コース歩いてほしいので、全県に12コースを構築し、1年間、12コースを歩き、宿泊を伴うウォーキングを実現できた人は、山梨県知事との懇談夕食会にご招待するというご褒美を用意しましょう。その会場で、山梨の観光振興について意見をいろいろ言ってもらえれば、十分元は取れると思われまます。県の観光部、市町村と連携して、広報をかけて、県内県外の旅人がグループで宿泊を伴う旅をできるよう、日程の提案も行う必要があるかもしれません。もちろん、個人でクリアすることも歓迎します。地域の観光協会に歩く前と歩いた後に認定してもらえば、歩いたかどうかの確認は可能だと思います。その人の功績をたたえることで、地道に山梨ファンを増やしていくことになるのではないのでしょうか。

ウォーキングコースを全県に作るコンセプト

普通のウォーキングと異なる大きなポイントは

10名程度の有志でコースを実践し、全員が歩きながら途中、血圧や歩数を測定し、記録。その結果をスポーツ医学の研究者にお願いして、すべてのコースに消費カロリーを算出します。コースを歩くと消費するカロリーを各コースの冒頭やガイド書に掲載することで、歩く人に、思わぬやる気が生まれてくるのも事実です。つまり、あなたが歩いた結果はこのようになりますという結果を提示します。歩けば疲れるばかりではなく、歴史や観光資源を味わいつつ、体内カロリーを消費することができるのですよ、と提案するのです。それによって、旅人は歩く必然性を感じることができるといえるでしょう。実地調査は、ウォーキング好きの市民に広報媒体を積極的に活用し、呼びかけて行うのがよいと思います。

コース選定方法

山梨県に既存のウォーキングコースはありますが、歩く必然性や歩きたくなるストーリーをあまり掘り起こしていないと思います。たとえば、江戸幕府が終わり、明治新政府になって日本に初めてワインづくりのためのぶどう栽培を取り入れたのは大久保利通である(勝沼のワイン資料館にある)ことを全国ネタとしてアピールすべきです。そして、山梨県がなぜワインづくりに力を入れることになったのかということにつなげます。旅はその土地の歴史をしっかりベースに敷き、魅力ある現代感覚の旅の素材を編みこむことが重要です。信玄ばかりではなく、他の歴史を深く掘り起こし、わかりやすく加味するのです。過去に出た歴史書、地域歴史家の書物などすべてを洗って、全国ネタの歴史を掘り起こすことに力を注ぐといいたいのです。

その他に、山梨の宝、昔からの道、ストーリー性、巨木、景色眺望、朝日、夕日のポイント、朝市、温泉、祭り、有名人の旅の痕跡、宿泊した宿などを旅の素材としてできる限りちりばめる必要があるでしょう。そうするには、旅心を熟知し、歩く人の共感を得ることのできる人材のプロフェッショナルな味つけが求められると思います。

日程は、午前10時頃から午後3時頃で終わられるコースにします。そのあと、近くのお店をひやかしたり、温泉につかり、宿に入り、夕食の時刻となります。

お昼のお弁当は、カロリーを計算した地産地消の低カロリーのごちそう弁当を、最寄りの有志の店に有償で商品化してもらい、歩く希望者に届けてもらうとよいでしょう。これを行うことにより、ウォーキングの個性が光ると思われまます。今回は身延町在住の委員が、雑穀米のご飯としゃけのお弁当を作り提供していただきました。地域ならではのストーリーのある昼食を出したいものです。

(特記 「身延山・久遠寺、奥の院フィットネス・ウォーキング実地調査報告」を合わせてお読みください。)

公共交通でやってくる人を意識

高齢になると車の運転ができなくなります。つまり旅人としては、JR などの公共交通で駅に着く人を主に想定する必要があるでしょう。車の人は気に入らなければ次の旅先へ移動可能ですが、公共交通機関利用の人は簡単には移動できません。そんな意味でも、公共交通でやってくる人を主ターゲットとすることが求められます。

女性の足、しかも熟年・高齢者の足でコースを歩き、体力のない人に照準を合わせる。

従来の山梨県のウォーキングマップは、どんな人が歩いて提案しているか、分かりません。若く、健脚の人が所要時間は何分と書いていても、信憑性は見い出せません。体力的に最も弱者がつくるウォーキングコース案内でないと、女性、熟年・高齢者は信頼が置けないのです。

コース構築と同時に、道案内の人材の育成を行う。

個人旅行でも迷わなくて済むように、ウォーキングコースの案内人を育てることが必要であると思われます。地域の元気な熟年・高齢者を組織し、トラベルボランティア(旅先介助ボランティア)と兼務させます。無償では長続きしないので、有償にすることが求められます。そうすることにより、生き甲斐と報酬が手に入り、さらに元気を手に入れることができ、また、案内人が、もし目や耳などの不自由な人が訪れた場合に、とたんにギブアップするのではなく、速やかに対応ができる程度の手引き介助サポート方法も伝えることが大切です。

情報は紙媒体とインターネットから誰でもが、取り出せるようにする。

1カ所のウォーキングルートの紙媒体情報は、A4サイズの1ページに入れて合計12ページと全体の案内をつくりたいものです。そして、同じページがインターネットで取り出せるようにします。一旦構築したフィットネス・ウォーキングコースは、無駄をはぶき、インターネットを通じて普遍的な山梨県のウォーキング情報として、長期的に全国発信していく必要があります。そのため、ストーリー性が必要です。人は歩く時間を意味ある時間にしたいと考えており、無駄に時間を費やしたくないものです。

案内に概略コース地図と標高図をもらさない。

案内には、女性、子どもでも歩けるコースなのか、いったいどれくらいの距離を歩き、どれくらいの標高を登り下がるのかが分かり、利用者が安心できる材料として、コース地図と標高図を入れます。万歩計の歩数も提示すると安心かもしれません。ガイド部分にはコース、概略、行き方、問い合わせ先を記述します。安心して歩くことのできる環境整備です。

ウォーキングコースをつくるのに、3回は実踏調査する。

コースをつくる場合は少なくとも3回同じコースを歩く必要があるでしょう。

(ア)ロケーションハンティング

(イ)皆と万歩計、血圧計を持参で測定しながら歩く。

(ウ)記事を書くために様々な資料を手に入れた上で、地域の歴史を踏まえて、郷土史家と共に歩く。

特記 「身延山・久遠寺、奥の院フィットネス・ウォーキング実踏調査報告」を合わせてお読みください。

終わりに

観光の語源は中国の古典「易経」の中にかかっている「国の光を観る」ことに由来しています。21世紀は観光の形がわりつつあります。

折りしも富士山が世界遺産の暫定リストに掲載されたことを機にこの夏は富士登山に大勢の人々が訪れました。これまで入山制限や入山料の徴収には難色を示す人々もようやくその意味に気付きはじめました。観光客の安全・快適と自然保護は両立させなければなりません。大切な観光資源を守り活かしていくためには、長期的な視点に立つことが重要だと思えます。

私たちの提案は未熟なものではありますが、山梨を愛してやまない委員たちが将来を見据えて知恵を出し合おうと思いを結集いたしました。我々の提案が山梨の未来に向けての第一歩になることを願っています。

やまなし女性の知恵委員会 観光の振興班 委員一同

井出久江 井口ひとみ 大西月子 小川はるみ おそどまさこ 窪田真弓 小池ひろみ
小出順子 酒井かおる 田中初美 玉川眞奈美 安本妙子 渡辺洋子 (五十音順)